

研究課題名	<p>2017-046</p> <p>渡邊法による手指屈筋腱断裂の治療成績と外来早期運動療法の試み</p>
実施責任者	<p>名古屋掖済会病院 リハビリテーション部 作業療法士 稲垣慶之</p>
研究の概要	<p>手指屈筋腱断裂の治療では、術後のリハビリ中に縫合した腱に癒着を生じたり、再断裂する可能性が報告されています。腱縫合の方法やリハビリにもいくつかの方法があります。</p> <p>電子カルテシステムより情報を収集して、手指屈筋腱断裂のリハビリ終了時の手指の関節可動域、リハビリ終了までの期間、再断裂の有無を比較検討します。</p> <p>この内容には氏名・住所といった個人を特定できるような情報は含みません。</p>
実施の期間	<p>2008年 1月 1日 より</p> <p>2017年 12月 1日 まで</p>
研究対象	<p>上記の期間に、当院整形外科にて Zone I・II の手指屈筋腱断裂と診断され、腱縫合手術、リハビリを行ないました患者様が対象となります。</p>